

■ 発行人 飯山市農業委員長 松永晋一  
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会



農業を頑張っている  
温井の江口さん(85歳)

飯山市農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：0269-62-3111  
(内線261)  
FAX：0269-62-6221

## 平成26年度管外研修視察

### 富山県高岡市の六次産業視察

農業委員会では、農業の六次産業化に向け、成功事例に学ぼうと7月23・24日に研修視察しました。

最初に高岡市役所では、市の産業振興部農業水産課の担当者より取り組みについて説明を受けました。

地元産農産物の付加価値を高め、農業従事者の所得向上や、競争力向上につなげる農業振興を図る目的で、平



成24年度から特産品開発アドバイザー派遣事業を導入したとのこと。市内で特産品の生産振興に取り組む農業者・農業団体に対し、特産品の品質の向上やパッケージデザインの改良・販路の拡大等利用者のニーズに応じたアドバイザーを無料で派遣するシステムを作り、専門分野別に開発担当・デザイン担当・流通・販売担当に9名の方々に委嘱して活動を展開しているとのことでした。

アドバイザーの報酬は、一農業団体あたり年二回まで市の負担(派遣一回につき三万円)とし、指導・助言の過程での材料や試作等を必要とする費用は受益者側が負担することとした。その後、六次化で実績を上げている市内の森田農園で研修を行いました。この農園ではトマトのハウス栽培にクラシック音楽

を取り入れ、毎日一定時間音楽を流すことで商品に付加価値を付け「モーツァルトトマト」というブランド化に成功しました。県内のメディアやマスコミで取り上げられ注目を高め、今ではトマトジュースの加工や農業カフェへと事業を展開しているとのことでした。

情報委員長 今井



イラスト：おのだ

## あぜ道だより



瑞穂地区農業委員長 増山 正一

### 農業者は何をすべきか？

瑞穂地区の耕作地を見たとき、平地の田んぼはそのまま耕作されていますが、山手の田んぼや畑は耕作されておらず、そこへ行く道さえもなくなってしまうのが現状です。

農業委員になって遊休農地の確認で管内の人たちの土地を見回る事があり、こんなに耕作放棄地があるのかと驚かされます。

周りで農業をしている人の年齢は若くはありません。自分の家のことを見ても、田んぼと屋敷の畑を何とか耕作していますが、お米の販売では毎年大赤字になっています。生産の苦勞をしながら年金からの補

填をするのですから、趣味というより道業者となっています。何か野菜を販売して農業で生活することができないのか考えてみても良い農産物はあります。

### 有利販売ができないか？

飯山地方のお米は美味しいと言われ、食味コンクールでも上位になっている人が何人もいます。ですが、これを活かしたお米の有利販売を考えると個人ではできません。

米の需要も毎年減少していると言われ、25年産米の販売も厳しい状況になっていますが、農協では何とか完販となったと言います。こんな事をふまえて、コメ販売も大変リスクがあります。26年産米の概算金は農業新聞などによれば、どうも安くなってしまうようです。

### 今後の農政と進むべき道は？

《農民》の記事によると、6月13日に政府の規制改革会議が出した「答申」は、TPPに参加し、「世界で最も企業が活躍しやすい日本」をつくる成長戦略の一環として、日本農業と国民の食を支えてきた家族農業を否定し、営利企業に農業と農地を解禁すること、その障害になっている農協や農業委員会の解体に等しい改革内容となっています。農業関係者を無視して作られた内容は史上最悪のひどいものだと言われています。

## がんばっています！ — No.34 —

### 農業の魅力は「素」です

Iターン新規就農者 山坂 光史さん

国際化の進展にともない、「食」への安全・安心がより一層高まっている。そのような情勢の中、課題は何と言っても高齢化や後継者不足だ。このままでは荒廃農地化が進み、やがては美しい農村景観が失われていくことにもなる。

後継者不足の原因の一つに、農業に魅力を感じない若者が多いからだろうか？

崎さんちのお米がヒット、偶然にもよく遊びに来ていた所だったので即決しました。

### 将来の夢は？

農家民宿です。規模は、大規模ではなく小さなアットホームな民宿です。

朝、宿泊客と一緒に野菜を収穫し、超新鮮な農産物を食べてもらいたい。

そのため、米作りの傍ら休耕地を借りて

ピーマンやカボチャづくりにも挑戦しています。

■農業の魅力は一言でいうと？

「素」です。素人の素、素直な素、素敵な素。たくさんの素



■農業をやるうと思った理由は？  
小学校の頃、米不足になり外国から輸入したニュースを見たのがきっかけでした。そのとき思ったことは、米は日本人の主食です。口にするものはやはり、安心・安全なものでなければいけない。そこで、自分で米を作りたいと思いました。

### 飯山を選んだ理由は？

頻りに長野県、特に北信地方が好きでよく遊びにきていました。

米作りをしたいと思っていたので、インターネットで検索していたところ飯山市小境の「金

月13日に政府の規制改革会議が出した「答申」は、TPPに参加し、「世界で最も企業が活躍しやすい日本」をつくる成長戦略の一環として、日本農業と国民の食を支えてきた家族農業を否定し、営利企業に農業と農地を解禁すること、その障害になっている農協や農業委員会の解体に等しい改革内容となっています。農業関係者を無視して作られた内容は史上最悪のひどいものだと言われています。

## あしあと

### (7・8月の活動記録)

- 7/10 農業委員会役員会
- 23・24 農業委員会研修視察(富山市)
- 30 7月農業委員会総会
- 8/5 農業委員会役員会
- 27 8月農業委員会総会
- ” 北信5市農業委員会研修会(文化北竜館)
- 29 北信州農村女性のつどい(中野市)

● **農地パトロール(農地利用状況調査)を実施します**  
農地の利用状況を把握することにより、農地の確保と遊休農地化の防止を目的として、全国一斉に行われるもので、飯山市農業委員会では9月～10月の間に行います。

● 農地は一度荒れてしまうと、復旧に多くの時間と費用が掛かりますので、遊休農地化の防止にご協力をお願いします。

### 「農地中間管理事業」の受付が始まりました

国の新たな農業施策として、経営規模縮小などで「農地を貸したい」方から、農地中間管理機構(長野県農業開発公社)が農地を借受け、「規模拡大したい」「新たに農業を始めたい」方に、まとまりのある形で農地を利用できるよう配慮して貸付ける事業です。

● 平成26年度のスケジュールは以下のとおりです。

- 7月～貸出し希望農地の受付
- 9月～10月借受希望者の公募
- 1月～3月農地中間管理権・借受希望者への権利設定  
お問い合わせは飯山市役所農林課(内線264)